

第23回満洲歯科医学会大会録誌より 中原市五郎先生の祝辞を考える

葉間正造 賀屋重雍 杉本茂春

中原市五郎先生が型破りともきこえる異例のあいさつを行なったのは、康德7年、昭和15年(1940)8月24・5・6日、第23回満洲歯科医学会大会の席上であった。

そして、外地満洲にあって、それを聞いた300余名の参加会員はどんな思いで受けとめたのであろうか。

300余名の参加者ということは、当時の世相ならびに歯科界の情勢から考えると、全国的人材を結集した空前絶後の大会であった。

中原先生の声を受けとめて聴き入る人たちと反発をおさえて聞き入る人たちが相半ばしていたに違いない。

しかし、時の勢いは挙国一致体勢に守られて、歯科界の団結もまた国家の要請に基づいていたのである。

40数年の時空を超えて、今日なお活躍を続ける往年の学究者たちは今これをふりかえってどのように回想されるか。当時の読みが今日どのように変化してきているか。今後その変化をどのように広げてゆくか、興味は尽きない。当時の未来学をふまえて、歴史の軌跡を反省したい。

このような意図のもとに、私たちは昭和59年10月27日、日本歯科大学新潟歯学部における日本歯科医史学会で、中原市五郎先生の型破りともみえる異例の祝辞、情熱を傾けて歯科界にはなむけすることばを発表した。

中原市五郎先生の祝辞

数多い祝辞のうち、歯科界の代表といえる祝辞は4氏。

日本歯科医師会会長

血脇守之助



図1 大会記念ラベル
(津下敏夫氏提供)

満洲聯合歯科医師会会長

日下卓四郎

中原市五郎

京城歯科医学会会長・

京城歯科医学専門学校校長

柳楽達見

かがやさしい肩書に飾られ、かつ、守られた3氏にまじって、中原先生はあたかも無位無官を誇るかのように、あるべき肩書きもかなぐり捨てて壇上に立ち、意欲的な口調で次のように述べられた。

「私ハ図ラズモコノ盛大ナル学会ニ臨ミマシテ個人トシテ一言祝辞ヲ述ベ得ル事ハ誠ニ光栄ノ至リデアルト存ジマス。コノ満洲関東州ニハ私ノ経営スル日本歯科医学専門学校出身ノモノガ約100人ホド居リマスガ、コノ校友カラ従来シバシバ満洲ニ来イト勧誘サレテ居ツタ。然ルニ今回ハ福島会長ガワザワザ出京シテオヤジ是非出ロト言ハレマスノデ74歳ノ老軀ニ鞭ウツテヤツテ来タ次第デアリマス。」



図 2 ハルピンのシンボルマーク
(津下敏夫氏提供)

第Ⅰに感ジマスコトハはるぴンデハ国立大学ニ
歯科医学部ガ置イテアル事デアル。東洋ニ於テ歯
科ヲ大学制トシテ教育スルノハ是レガ初メデア
リマス。日本ニ比シ羨望ニ堪ヘマセヌ。日本デハ
三万ノ歯科医ヲ数ヘマスガコノ三万ノ歯科医ハ国
家ガ養成シテ呉レタノデハナイ。吾々私学ノ手デ
造リ上ゲタノダ。今日ノ世界ニ於テ最モ優レタル
歯科医学ヲ築キ上ゲタノハ国家ノ力デハナク民間
ノ吾々ノ力デアッタ。兎ニ角私ト血脇君ト二人ハ
古クカラ歯科トイフ問題ニ就テ互ニ争ツテ今日マ
デ来タ。争ヒ即チ研究ニ依テ今日ニ至リマシタ。
九州モ大阪モアル。イロイロアルト言フカモ知レ
マセンガ之等ハ何レモ吾々二人ノ学校ノ出身者ガ
夫々築キ上ゲタノデアル。実ニ東京歯科ノ血脇君
ト私トハ腕力ニ訴ヘンバカリノ血ミドロノ戦ヒヲ
続ケテ来タ。今日互ニ老境ニ入り既往ヲ考ヘマス
ト赧顔ニ堪ヘヌ処デアリマス。血脇君ガ功勞者デ
アレバ私モ亦教育者トシテハ建設者ノ一人デア
ル。故ニ互ニ学派ヲ造ツテ今日マデ争ツテ参ッ
タ。然シ今日デハ最早ヤ学派デ争ヒヲ致スベキ時
デナイ。昨年十二月昭和歯科評論ニ歌ヲ載セタ
「日の本の国の興廢迫り来て」ノ句ハ今ノ私ノ心
境ナノデアリマス。

以前ナレバ福島君ガ私ノ玄関ヲ訪ヅレタトシテ
モ居留守ヲ使ツタ事ト思フ。然シ今日デハ私ハ喜
ンデ斯克出席シタ次第デアリマス。サテコチラデ

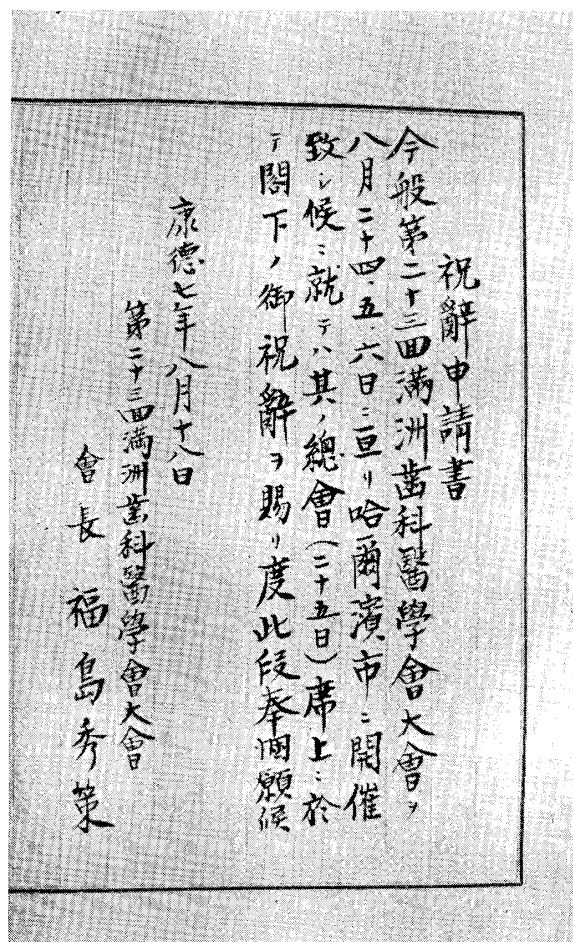


図 3 墨書祝辞申請書
(津下敏夫氏提供)

ハ五族協和ノ精神ヲ以テ日満露歯科医師ガ互ニ協
調シテ発展ヲ期シテ居ラレル。吾々日本トシテモ
矢張り之デナクテハイケナイ。立派ナ不偏不党ノ
人ガ立ツテ日本ノ歯科界ヲ導イテ呉レルナレバド
レ程ノ幸福カ。奥村君デモヨイ花沢君デモヨイ。
喜ンデ吾々ハ之等ノ人ト共ニ協力シテ国家ノ為メ
ニ働キ度イト思フノデアリマス。日本デハ自由
党。政友会。民政党ト血ミドロノ争ヒヲシタガ今
日争ヒハ消エ政党ハ解散シテ東亜新秩序ノ建設ニ
尽サントシテキル。吾々モ大ニ尽シ度イト思フ。
甚ダ簡単ナガラ本会ガ益々発展シ日本ノ模範トナ
ラン事ヲ希望シテ止ミマセン」以上。

満州歯科医学大会のアウトライン

- 大会役員は
名誉会長

佐山 光章

大会会長
準備委員長・接待部長
庶務部長
会計部長
講演部長
展覽部長
見学部長
●祝電

大連日赤病院長
奉天齒科商会
大阪齒科医学会
大日本齒科医学会長
日本齒科医学会長
朝鮮齒科医学会長

●補綴学会

大阪帝国大学齒科
民生部保健司
東京齒科学専門学校
全
民生部保健司
日本大学齒科
東京齒科医学専門学校
全
奉天
慶応大学医学部生理学教室
京城
新京
九州帝国大学
大阪森田齒科商店
大阪臨牀齒科社
京北齒科医学校
日本齒科新聞社
佳木斯
チャムス
京都齒科医師会

講演者名簿

●講演者

チチハル満鉄

福島 秀策
高橋 正利
安利 剛
片山 健二
小林 一郎
小畑 晃作
小林道之助

西堀新次郎

西村 豊治
加藤 清治
生田 信保

大西 英隆
弓倉 繁家
大平 得三
血脇守之助
奥村 鶴吉
家原小文治
川合 渉
大井 清
遠藤至六郎
中島 秀造
石塚 保
外 圭三
香 取
問田 亮次

大久保通次
赤尾 酔仙
竹内 孝一
工藤 守邦

{正盛 起
小林 弘
今西 七郎

新京満鉄
全

安東満鉄

西安炭鋳病院

大連医院

全

松風

新京特別市立医院齒科長

撫順満鉄

吉林満鉄

牡丹江市

ハルビン満鉄

ハルビン医科大学齒科
大阪

吉林満鉄

新京満鉄

チチハル市立病院

大連日赤

吉林満鉄

大連聖愛医院

大連日赤

ハルビン大学齒科

小林細菌研究所

ハルビン大学齒科

新京満鉄

撫順満鉄

ハイラル満鉄

撫順満鉄

大連

奉天

今西 喜一
元橋 大

{石橋 保
川上 陸郎
福重 正一
小宮 孝
鈴木 忠男
山口 保

{横田 享
山口 保

技師 宮津 一

渡辺 悌

正盛 起

副島 侃二

川元 克己

安東 猛

井上 博之

{武藤 十郎
田中 俊男

茂田 貫一

榊原 猷曹

宮津 一

大石 勝人

{茶山 信吉
橋高 第三

鎗田 勇

脇屋 和夫

松尾 克己

{脇 恒彦
河崎 容広

堀田 一

{森 栄之助
大熊 重彦

医博 藤正 政人

王 宗哲

大橋 正三

田中 永治

秀島 重戸

柳田 浩司

吉岡 玄一

平沢 満也

慶応大学医学部歯科助教授	富取卯太治	全	北村 一郎
満洲医科大学	{佐山 光章	京城歯専教授	矢尾 太郎
	{穂坂 恒夫	京城歯専教授	岡田 正
大連聖愛医院	{脇 恒彦	前出	花沢 鼎
満洲医科大学	{河崎 容広	全	永松 勝海
	中村議兵衛	ライオン口腔衛生部長	向井 喜男
大連医院	{鈴木 喬	小林細菌研究所	藤正 政人
	{横田 享	前出	塚野多四郎
全	横田 享		

各学会の代表者

ハルピン満鉄	{小林 一郎	● 歯科学会	
	{小野 正彦	大日本歯科医学会	西村 豊治
	{富久尾徳兵衛	日本歯科学会	加藤 清治
ハルピン満鉄建設	{羽田 宣男	日本大学歯科医学会	佐藤 運雄
	{山岸 昇	日本矯正歯科学会	榎本 美彦
	{若狭修太郎	日本補綴歯科学会	堀江 銑一
九州歯科医専教授校長	医博 永松 勝海	口腔病学会	島峯 徹
京城歯科医専教授	医博 垣見 庸三	大阪歯科学会	朝比奈藤太郎
平壤医専 教授	塚野多四郎	日本口腔科学会	
ゲーシー化学研究所	圓城芳之助	九州歯科学会	永松 勝海
名古屋帝国大学医学部	講師 北村 一郎	口腔科学会	問田 亮次
日本歯科医専教授	医博 国分 史楼	日本口腔医学会	大久保通治
大阪歯科医専教授	飯塚淳一郎	京城歯科学会	柳楽 達見
陸軍軍医学校教官軍医中佐医博	松本 秀治	朝鮮歯科医学会	生田 信保
東京歯科医専教授	花沢 鼎	台湾歯科医学会	大橋平治郎
		満洲歯科医学会	佐山 光章

公式来会者への便宜

● 大連税関の通関依頼を受けた者

	前出	中原市五郎
	全	国分 史楼
	全	富取卯太治
小倉森田歯科商店		井丸 二郎
大阪森田歯科商店		横江 義一
九州歯科新聞社長		田中 武
	前出	榊原 猷曹
	助手	梅野 邦雄
中山文化研究所長		窪 啓正

● 安東・新義州税関の通関依頼を受けた者

	前出	飯塚淳一郎
大阪歯科医専助教授		中村 正雄
	前出	松本 秀治

来賓名簿

● 市長招宴出席者 4名

東京歯科医専 教授	花沢 鼎
東京陸軍軍医学校教官	松本 秀治
九州歯科医専 校長	永松 勝海
新京特別市立医院歯科長	渡辺 悌

● 来賓 20名

北村 一郎	矢尾 太郎	中原市五郎
国分 史楼	藤正 政人	富取卯太治
岡田 正	圓城芳之助	中尾 正
榊原 猷曹	窪 啓正	河崎 静順
飯塚淳一郎	梅野 邦雄	宮津 一
向井 喜男	森田 二郎	松風 憲二

田中 武	塚野多四郎	以上	塩坂 和子	中村 七郎	天川 克巳
			市川 武一	青田 寿治	窪田 宗隆
			石田 晋	野田 久雄	橋詰 孝三
			鹿野八千代	小林 弘	副島 侃二
			長岡 寛穂	桧垣 巖	川元 克巳
			柳田 浩司	永井 政巳	宮沢 泰三
			増田 饒	五十嵐 稔	磯江 政男
			岡田 満三	清水峻次郎	加藤 醇一
			渡辺 寿祐	高橋 信吾	奥山 宗重
			四道 為人	小松 用太	松本 政俊
			板川 福繁	小泉 清治	浅香 郷一
			上羅周一郎	渡来 尚彦	永瀬 英一
			吉久 横鉄	田辺和三郎	真泉 平治
			安東 猛	大石 勝人	田中 道得
			正盛 起	落合 親	諸岡 敏雄
			鎗田 勇	池田 哲	今西 七郎
			小林 弘	陳 克明	中野 三郎
			永井銀三郎	秀島 重戸	柘山 武
			本庄 操	松浦 汀	井上 博之
			白田 虎次	亀田 博	塚田 準二
			川西 勝政	永崎 秀雄	山角 泰
			白石 正雄	水野 誠	川崎 正治
			三木 享	斉藤 太郎	藤田 正夫
			平田 清敏	野口 富樹	杉田 徳雄
			乃美 博	潘 振寰	金 丕中
			藤田 庸三	平山 秀雄	高島 忠男
			矢部 光鏡	楊 清也	鎌田 実夫
			出口 偉六	飯盛 常則	三輪 弘毅
			辺 憲春	別府 悟	片山 昇
			綾塚 敏夫	小佐井 力	中島 衛
			阿久津寅雄	執行 茂雄	駒木 豊吉
			清水 玄熊	森岡 武一	荻谷 好光
			谷 節	村井 正徳	秋尾 栄
			森 洋	野口 孝輔	丸山 弘
			藤本 義則	高橋 幹夫	鶴 連三郎
			木下誠一郎	姜 興淑	溝口 鉄夫
			福田 猛	寺師 寿男	浜坂稜威男
			菅 次郎	向 享	広山 秀直
			浦野 左京	鈴木 昇三	浅田藤吉郎
			蒲生 干郷	河崎 瀬順	森藤 陽三
			李 芷青	任 智鴻	鄭 法貴

参加会員名簿

●参加会員 333名

青田 寿雄	今西 喜一
岡林 景茂	音山 正樹
尾崎 義彦	丘 昌麟
鹿谷 隆次	重浦 卓一
孫 国華	高石 秀彦
田 承傑	田 雲齊
菱刈 幸盛	松尾 鎮
山崎 錦司	柳 清見
亀川 一郎	松岡三四郎
村上 敏	松尾 澄一
胡 銓	戸沢 正一
馬 慶雲	高 精一
内山 英敏	猪俣賢之助
稲井 鉄鳴	植田 勇
大坪 恭蔵	大月 俊夫
佐藤 季雄	米岡 精次
田口 光星	辻 昌仁
長野 朗	中島 孝彦
長谷川隆一	平沢 満也
福井 文夫	堀江 浅安
松尾 忠行	三島 昌平
本木 孝夫	宮入 秀夫
堤 康紘	石橋 政雄
岡本 栄一	河崎 智俊
木村 俊三	岸田 憲行
児玉 六雄	柴田 享
鈴木 忠男	田中 専光
宝来 徳寿	出口慶之助
早川 春子	藤富利四郎
堀内 泉	堀田 一
山口 保	山本 治
脇屋 和夫	和田政治郎
千早小四郎	林田 雅人
岡崎 武雄	鴨川 義之
谷崎 儀雄	酒井 信義
川上 陸郎	福重 正一
平井 虎二	名取良一郎

井上 俊介
奥村 元武
佐野 専一
菅沼 一夫
高橋 甲
富取 敏光
松下紀三郎
長嶺 晋吉
堀田 六助
清水 信義
于 適群
増原 襄平
石川助九郎
大森 佐重
角 暢
立川 俊夫
富岡 信夫
中村儀兵衛
平井 俊穂
穂坂 恒夫
田中 栄一
芳賀 高政
岡崎輝太郎
川起已之助
日下卓四郎
鈴木 喬
田口 静夫
中村麻五郎
藤森 虎章
真下 守衛
吉岡 玄一
大島 巖
堤 勇夫
鹿野 紅葉
永井 周三
一木 清輔
塩坂 政治

塩坂 和子
市川 武一
石田 晋
鹿野八千代
長岡 寛穂
柳田 浩司
増田 饒
岡田 満三
渡辺 寿祐
四道 為人
板川 福繁
上羅周一郎
吉久 横鉄
安東 猛
正盛 起
鎗田 勇
小林 弘
永井銀三郎
本庄 操
白田 虎次
川西 勝政
白石 正雄
三木 享
平田 清敏
乃美 博
藤田 庸三
矢部 光鏡
出口 偉六
辺 憲春
綾塚 敏夫
阿久津寅雄
清水 玄熊
谷 節
森 洋
藤本 義則
木下誠一郎
福田 猛
菅 次郎
浦野 左京
蒲生 干郷
李 芷青

中村 七郎
青田 寿治
野田 久雄
小林 弘
桧垣 巖
永井 政巳
五十嵐 稔
清水峻次郎
高橋 信吾
小松 用太
小泉 清治
渡来 尚彦
田辺和三郎
大石 勝人
落合 親
池田 哲
陳 克明
秀島 重戸
松浦 汀
亀田 博
永崎 秀雄
水野 誠
斉藤 太郎
野口 富樹
潘 振寰
平山 秀雄
楊 清也
飯盛 常則
別府 悟
小佐井 力
執行 茂雄
森岡 武一
村井 正徳
野口 孝輔
高橋 幹夫
姜 興淑
寺師 寿男
向 享
鈴木 昇三
河崎 瀬順
任 智鴻

天川 克巳
窪田 宗隆
橋詰 孝三
副島 侃二
川元 克巳
宮沢 泰三
磯江 政男
加藤 醇一
奥山 宗重
松本 政俊
浅香 郷一
永瀬 英一
真泉 平治
田中 道得
諸岡 敏雄
今西 七郎
中野 三郎
柘山 武
井上 博之
塚田 準二
山角 泰
川崎 正治
藤田 正夫
杉田 徳雄
金 丕中
高島 忠男
鎌田 実夫
三輪 弘毅
片山 昇
中島 衛
駒木 豊吉
荻谷 好光
秋尾 栄
丸山 弘
鶴 連三郎
溝口 鉄夫
浜坂稜威男
広山 秀直
浅田藤吉郎
森藤 陽三
鄭 法貴

李 習民	周 書全	張 太康	石沢 貞治	青木規恵子	島田 秋子
劉 荊山	許 殿雲	張 郁生	以上		
米 志超	周 堯風	馬 青芳	発行人 福島 秀策		
李 習良	張 柏岩	趙 麟光	編集人 風間又四郎		
原 鳳超	齊 紹宗	徐 恵南	津下 敏夫		
何 鳳宣	金 玉崑	周 宗岐	印刷人 橋本 正隆		
高 鴻志	王 松波	徐 繼周			
柯 祥麟	王 稚齊	王 寿祥			
呂 運瑞	郝 晋臣	曲 文藻			
王 鐘逸	王 燕主	李 中田			
劉 德	鐘 子楊	鐘 振武			
鐘 振英	陳 治民	王 宸			
唐 華庭	李 蔭成	劉 東亮			
劉 鳳書	張 子益	韓 剛泉			
田 鳳閣	李 健民	王 冠時			
馬 時行	以上				

まとめ

1. 戦中戦後、いたずらに夢と消えた45年の歳月を距てて、中原市五郎先生の氣迫にみちた祝辞を、どう読むか。

1. 当時、何気なく聞きながした中原先生の祝辞を、現代の時流のなかでどう分析するか。

1. 手近い過去の歴史を省みて、今後、健保法改正の時勢をどのように指導して行くか。

1. 往年、彼地に活躍した数多い歯科医たちの歴史を記録しておく必要があるし、また、その時期を失してはならないと思う。

近代歯科人物史のいとぐちとしたい。

ここに掲げた300余名の参加者名簿に、本人もしくは知己友人など、何らかのかかわりを持たれる方々から一紙半片の資料、片言隻句の思い出を寄せていただけたら、たいへんありがたいと思います。歴史に目をむけて、未来への読みを深めたいものです。

また、この一文は『第23回満洲歯科医学会大会録誌』とその編集記録によりました。しかも、その特徴は当時活躍した人名を克明に記録して、歯科医史的価値を高めていることです。それは編集実務を担当した津下敏夫氏の見識に負うところが大きかったです。

●ハルビン地区

福島 秀策	高橋 正利	小畑 晃作
小林 一郎	安利 剛	小林道之助
片山 健二	戸塚善之助	茂田 貫一
森 栄之助	大熊 重彦	武藤 十郎
小野 正彦	緒方 益夫	田中 俊男
北条 六男	梅田 兼松	塚崎 直敏
東嶺四一郎	桐本 弘	足立 武夫
羽田 宣夫	山岸 昇	若狭修太郎
楠 国雄	大場 省三	渡辺 栄
三村 鉄弥	五十嵐 正	土田寿貞蔵
島崎藤太郎	藤本 豊重	藤山 亀之
奥村 剛一	金 殷鐘	松田 芳雄
谷口 緑	広田 竜夫	高木 良雄
野尻 実	石井 安治	吉田 武
黄 東尚	三留 光男	尾本 劉三
菅 武美	青木 勇三	佐藤 重喜